

広報



2005
(平成17年)

まつざき

8

No. 495



主な内容

- ◆総合防災訓練……………P 2
- ◆小学校統合……………P 4
- ◆伊豆アドベンチャーレースP 5

夏祭！

各地区で天王祭が行われました。松崎にて（7/14）

九月一日は総合防災訓練の日

— いざという時の備えは万全ですか? —

想定される 東海地震の被害

東海地震の想定震源域は、

駿河湾から遠州灘とされており、地震の規模は、阪神淡路大震災の約十倍のマグニチュード八程度になると予想され

ています。

静岡県で作成した第三次地震被害想定では、松崎町の震度は六弱以上になり、地震発生後約八分で松崎港海岸に最大六メートルの高さの津波が押し寄せてくると考えられています。

ます。役場庁舎については、災害対策本部のみならず、津波避難建物として使用するため、耐震補強工事を実施しました。また、津波対策として夜間の停電時に備えて役場庁舎や松崎小学校、総合グラウンドに避難誘導灯を設置してあります。

提出され、今後地域の皆さんと一緒に協議検討していくことになりました。

南川河口の水門については、江奈地区の皆さんからの要望により、今年度実地調査が行われ、新港湾の建設に併せて設置される予定です。

家庭や地域での 備え

震度六弱では、激しい揺れが一分程度続き、立っていることが困難となり、固定していない家具の多くが動いたり転倒し、耐震性の低い家屋は倒壊する危険性があります。また、津波による被害は海岸付近や河川の近くを中心に、最大一メートルから二メートルの浸水被害が予想されます。

阪神淡路大震災では、死者の九割近くが倒壊家屋の下敷きで亡くなっています。さらにその数倍の人が倒壊物の下から救助され、その内の七割以上が家族や近所の人に助け出されています。

町内の広域避難地には、それぞれ非常食料や濾水機、毛布、テント等が常備されています。

町内では、災害時には、警察や消防がすべての場所に駆けつけることができません。「自らの命は自らで守る。」だけでなく、「自分達の地域は自分達で守る。」

災害時には、警察や消防がすべての場所に駆けつけることができません。「自らの命は自らで守る。」だけでなく、「自分達の地域は自分達で守る。」

町の防災対策

阪神淡路大震災の被害と東海地震の被害想定との比較

項目		阪神淡路大震災	静岡県第3次被害想定	松崎町第3次被害想定
対象人口(平成7年国調)		574万人	374万人	9,000人
地震のマグニチュード		7.3	8.0程度	8.0程度
震度7のエリア		約30K㎡	約130K㎡	—
建物被害等	全壊(大破)	104,906棟	192,450棟	635棟
	半壊(中破)	144,272棟	294,846棟	1,686棟
	一部損壊	263,702棟	279,433棟	930棟
	小計	512,880棟	766,729棟	3,251棟
人的被害	死者	6,435人	4,016人	66人
	重傷者	8,782人	16,309人	62人
	中等傷者	35,010人	73,072人	210人
	小計	50,227人	93,397人	338人

(予知なし冬の午後6時での被害想定)

を合言葉に、地域の自主防災活動に積極的に参加しましょう。

各家庭では、地震等の災害に備えて家族の避難先を確認しておきましょう。災害は家にいる時に起こるとは限りませんので、昼間や夜間、休日などどこに避難するか決めておくとうまいでしょう。

また、タンスや食器棚、テレビ、冷蔵庫など大型の家具、電気製品は丈夫な壁や柱などに固定して転倒を防止するほか、寝室にテレビや家具等を置かないよう、安全対策に努めましょう。

さらに、食料・飲料水は最低三日分、できれば七日分用意するとともに、下記の非常持ち出し品をまとめておきましょう。その他に赤ちゃんのいる家庭では紙おむつやミルク、哺乳瓶なども忘れずに用意しておきましょう。

地震が起きた時の心得

- ①まず、わが身の安全を守る！
慌てて外に飛び出さない！
 - ②すばやく火の始末！
電気・ガスの元栓をしめて！
 - ③火がでたら、すぐ消火！
 - ④山崩れ、ガケ崩れ、津波、浸水に注意！
 - ⑤生き埋めになっている人がいたら助けを呼んですぐ救助！
 - ⑥狭い路地、塀際、ガケや川べりに近寄らない！
 - ⑦避難は徒歩で！持ち物は少なく！
 - ⑧協力しあつて応急救護、自主防活動に参加
 - ⑨正しい情報をつかみ、デマに惑わされない
 - ⑩秩序を守って衛生に注意！
- いざという時、頼りになるのは近所の人です。日ごろから地域内での連携を深め、いざという時に備えましょう。

非常持ち出し品



小学校統合について

— 松崎町教育施設等整備検討委員会から答申 —

松崎町教育施設等整備検討

委員会が六月二十九日に開催され、町長から諮問を受けていた小学校の統合について答申を行いました。

答申の内容は、統合は止むを得ないとした上で、平成十九年度に岩科小学校・三浦小学校と松崎小学校を統合するもので、一部で統合に反対する少数意見があったことも付け加えられました。

時期については、統廃合による学校の準備期間や教職員の問題を考慮したもので、学校は、今後も複式学級が解消される見込みがない岩科・三浦の二小学校が対象となりました。

なお、中川小学校については、複式学級が発生する前に速やかに松崎小学校と統合することが望ましいとしております。

また、統合に対する町への

要望として、通学費の全額負担、登下校の路線バスと児童の安全確保及び各学校の教育方針のすり合わせを挙げています。

当委員会では、今まで三浦地区で実施したアンケート結果や各地区及び各小学校PTA懇談会での意見をもとに議論を重ね、その結果、今回の答申となりました。



松小・三浦小 交流授業



三浦小学校



岩科小学校

地域に残る人材を育てよう

西豆地域人材育成推進協議会設立

若者の地域外流出に歯止めをかけようと、このほど松崎町と西伊豆町、県立松崎高校の三者で、「西豆地域人材育成推進協議会」を結成しました。

これは、県立松崎高校と行政、地域が連携して少子化対策に取り組んでいくもので、協議会の委員は、両町の町長と議長、教育長、松崎高校校長の七人で構成しています。

ご承知のように、西豆地域は全国でも有数の自然、歴史文化をもつ観光地として人気を博していますが、近年の少子化により若者の人口が急激に減少しています。

このまま若者流出が続くと、西豆地域の最高学府である県立松崎高校へ入学する生徒が減り、将来は松崎高校の存続も危ぶまれる事態が予想されます。

このような状況の中で、少しでも若者が地域に定着でき

るよう、協議会では次の事業を実施していきます。

- ① 西豆地域郷土愛の育成
- ② 地域が求める人材の明確化と育成
- ③ 県立松崎高校の存続、活性化のための枠組み構築

具体的には、地元で頑張っている方に、西豆で生活する人生哲学や地域の未来について講演をお願いしたり、専門コース設置に向けての調査研究、連携型中高一貫教育の支援、生徒募集の支援、広報紙での情報発信など、多岐に渡って取り組んでいく予定です。

働く場所が少なく地元で就職できない若者も多く、過疎地域ではどこも同じような課題を抱えています。西豆地域の未来のため、より豊かな地域社会が創造できるよう地域全体でこの問題に取り組んでいきたいと思っております。皆さんのご協力をお願いします。

国土大臣賞受賞 - 伊豆アドベンチャーレース



表彰式



昨年のスタート

更なる上位進出を目指して！

市町村駅伝競走大会練習始まる

今年十二月に行われる市町村対抗駅伝競走大会に向けて代表選手達が練習を開始しました。

今年は、四十三市町五十七チームが参加します。

昨年は大幅な順位アップを果たし、今年は更に上位進出を目指して毎週水曜日、午後六時二十分から松崎小学校グラウンドで汗を流しています。

小学生から練習を重ねてきた選手が中学生、高校生になり、選手層に厚みができきた松崎町の駅伝チーム、昨年を上回る成績が期待できそうです。

また、七月三十日(土)に草薙で行われた抽選会において、開会式での選手宣誓を松崎町が担当することも決まり、選手達の意気込みもさらに大きくなっています。皆さん応援してください。



六月二十六日(日)、和歌山県田辺市で、平成十六年度半島地域活性化優良事例表彰式が行われ、「伊豆アドベンチャーレース」が最高賞の国土交通大臣賞を受賞しました。表彰式には事務局長の細田栄作氏が出席して表彰を受け、事例発表を行いました。

化事例を顕彰するコンクールで、半島の大自然を活用した交流促進や伊豆の知名度を上げた事が評価されました。伊豆アドベンチャーレースは住民主導で平成十一年のプレ大会から毎年開催されています。昨年は、伊豆九市町村連名で申請した国の地域再生計画及び構造改革特別区域計画に認定されたことから、国

内最高峰の三日間連続レースが開催されました。レースは伊豆の海や山を舞台にシーカヤック、シュノーケリング、トレッキング、マウンテンバイク、懸垂下降等を行いながらゴールを目指すマルチアウトドアスポーツです。

今年も九月に開催されますので、皆さん応援しましょう。

生涯学習ソフトボール 春季大会

六月に開幕した生涯学習ソフトボール春季大会には、十九チームが参加し、三部に分れてリーグ戦が行われ、連日熱戦が繰り広げられました。



各チームの成績は、

次のとおりです

◎一部リーグ

- 一位 船田
- 二位 道部
- 三位 峰輪
- 四位 石部
- 五位 江奈三
- 六位 雲見

◎二部リーグ

- 一位 桜田
- 二位 江奈一・二
- 三位 中区
- 四位 岩地
- 五位 西区
- 六位 山口

◎三部リーグ

- 一位 北区
- 二位 那賀区
- 三位 宮内
- 四位 金沢
- 五位 八木山
- 六位 南区
- 七位 江奈四

一部リーグでは船田の連覇が続いています。

子ども会球技大会 郡大会

七月三日(日)仁科小学校体育館で、賀茂郡下の子ども会球技大会が開催されました。今年からドッジボールのみとなった大会は、各町の大会を勝ち抜いたチームで争われ、松崎町からは、三浦タイガースと中川やまびこの二チームが出場し、三浦タイガースが三位に入賞しました。



3位入賞 三浦タイガース

松崎文芸

—短歌—

センサーをつけしか小鳥たちは温洲柑の味くらべ在来種には一口もつけず
平野 もみ子

昔むかしと先ずははじまるおとき話の種もそろそろつききてきてゐる
端山 きち枝

公園の木々の上なるちぎれ雲解けぬ思ひを追ひて見あぐる
高橋 栄美

南かと思へば西より吹きてくる気まぐれな風はひと日をくするはず
山本 智恵子

だんご虫集めし幼の手の中に今日はかちやかちやビー玉が鳴る
堀岡 洋子

銀色のヨットは銀色の波の上帆をはらませてこよひいでゆく
岡村 芳子

山あひの宿をもとめて訪ね来る客の笑顔に心いやされる
土屋 君子

再生へのチャンスに変へん絶対のピンチとなげいてゐる今この時を
高橋 百代

まちのびろろ

**石部温泉
大地曳網まつり**

七月三日(日)、石部海岸で第二十二回石部温泉大地曳網まつりが開催され、観光客など五百人余りの人出で賑わいました。

参加者は、仕掛けられた網を全員で息を合わせて引き寄せました。

今年は全体的に漁獲量が少なめだったようですが、バショウイカは昨年に比べて大型のものが獲れました。



**雲見温泉
無料サザエ祭り**

七月十七日(日)雲見海岸で雲見観光協会主催の無料サザエ狩りが行われ、多くの観光客で賑わいました。

漁船から約三千個のサザエが波打ち際に撒かれ、観光客は開始の合図とともに大人と子どもに分れて一斉に海に飛び込みサザエを拾いました。

千人近い人が海に飛び込む瞬間は迫力満点でした。



**海洋センター
水泳大会**

海の日の七月十八日、第二回松崎海洋センター水泳大会が開催され、八十人余りの小学生が出場しました。

大会では、小学校低学年のピート板競技や、中学年以上の自由形や平泳ぎなど四泳法とリレー競技が行われ、プールサイドに陣取った父兄や同級生の声援を受けた選手は、日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮しました。



町長室からこんにちは ④

心

このところ寒天ブームだと言われています。火付け役はテレビで、ダイエツト効果があると放映されてからのこと。

今さらながらテレビの影響力の大きさに驚いているところです。

寒天は心太を凍らせて作るものですが、近年科学的に作られるゼラチンが一般的になっているようです。

出荷用の心太は海藻「天草」を海から採取し、炎天下の砂浜に広げ、天日干しと真水の散水を、うす黄色になるまで何度も

太

続けて出来上がります。

松崎町では、雲見地区が一番の産地で、収穫期には砂浜にとろ狭しと干してあったのを思い出します。

出荷の時期になると、女性達が四斗樽に天草をつめて、その上に二人乗ってチークダンスならぬ樽ダンスで踏み固めたものを二つ重ねて一つにまとめ、寒い信州の寒天工場に出荷していました。

心太をご馳走になりながら、昔の光景を思い出した次第です。

松崎町長
深澤 進



写真提供：漁協雲見支所

21世紀 松崎町三つの実践運動「あいさつ・返事・後しまつ」

町の人口と世帯

(平成17年7月1日現在)
 () 内は前月比
 総人口 8,598人(±0人)
 男 4,093人(-4人)
 女 4,505人(+4人)
 世帯数 3,145戸(+2戸)
 転入 19人 転出 16人
 出生 3人 死亡 6人

広報まつやま

二〇〇五年八月一日発行
 第四九五号

〒410-1766 静岡県賀茂郡松崎町宮内三〇一
 (055)421-3963 FAX(055)421-3183

発行 静岡県松崎町
 印刷 (株)文寿堂印刷所

編集 総務課

(6月分) 戸籍だより

おくやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
道部	山本政男	82	友子
明伏	松原とき	91	林
西区	鈴木幸一郎	74	已代子
江奈4	石田伊三雄	80	昌己
金沢	菊池美男	84	きさの
岩地	村田金之助	67	藤子

おめでとうございます(出生)

地区	氏名	性別	保護者
南区	巧	男	鈴木好佑
那賀	蒼大	男	長谷川雅啓
峰輪	尚武	男	鈴木康之

町の交通事故

平成17年7月15日現在
 () 内は前年対比
 人身事故 23件 (-8)
 物損事故 59件 (-15)
 死者 0人 (±0)
 傷者 34人 (-15)

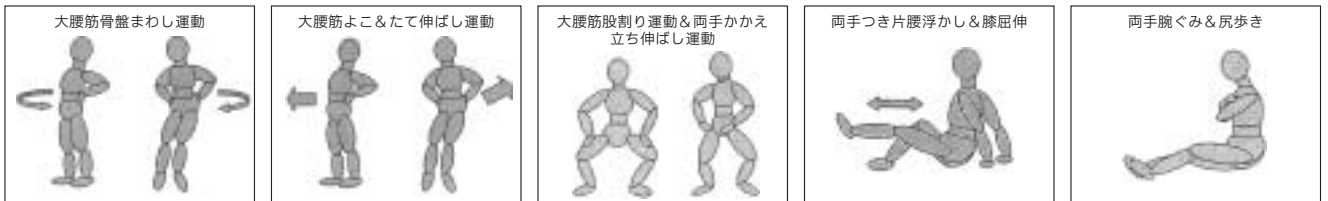
※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

保健師だより 《老化を防ぐ大腰筋体操》

最近、大腰筋が老化を防ぐのに非常に重要であると云われるようになりました。

大腰筋は腰の奥にあり、太ももの骨と背骨をつないでいる筋肉で骨盤を正しく保つ体のかなめです。大腰筋が弱ると①つまずき ②転倒 ③すり足 ④腰痛 ⑤猫背などが起こってきます。

歩行能力の向上、肥満の改善などに効果的な、自宅で手軽にできる大腰筋体操を紹介します。



学校ひろば

(50)

中川小学校
 ☎ 四三〇〇〇三

特設クラブで 地域の方々と交流

中川小学校では、年に2回の計画で特設クラブを開設しています。特設クラブというのは、中川地区の方に講師をしていただき、通常の二倍の時間枠で行われます。子供たちは、この特設クラブを毎年楽しみにしています。

今年も各地区の区長さん方にお世話になり、五つの講座を開くことができました。「竹細工(竹馬)」「竹細工(紙玉鉄砲)」「竹細工(竹とんぼと水鉄砲)」そして、「チーズお焼き」「ぬいぐるみ」です。事前に持たれた打合せでは、講師の皆さんが細かな計画と工夫をして下さり、自然に魅力的な授業が組み立てられ、頭の下がる思いでした。当日は、どの講座でも子供たちが夢中になって取り組み、時間を忘れてしまうほどでした。実に生き生きとした交流の場でもあったと思います。自分で遊

び道具を作って遊ぶことがほとんど無い子供たちにとって、器用にのこぎり・切り出しを操り細工される講師の皆さんの手は、ある種魔法の手であったと思います。美味しそうに仕上がったお焼きの説明をしてくれる子の目の輝きも印象的でした。また、ぬいぐるみで夢中になって妹の分も作ったと言う子もいましたが、その日特設クラブの楽しいお話を家で語った子も多いのではないかと思います。こういう地域の皆さんに大切にいただける学校は、幸せです。

